慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	韓國キリスト教会の信仰治療 : 現代シャーマニズム社会におけるキリスト教会
Sub Title	The devine healing in Korean christian church : the christian church in the modern sharmanistic society
Author	渕上, 恭子(Fuchigami, Kyoko)
Publisher	慶應義塾大学大学院社会学研究科
Publication year	1991
Jtitle	慶応義塾大学大学院社会学研究科紀要 : 社会学心理学教育学 (Studies in sociology, psychology and education). No.31 (1991.) ,p.1- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	論文
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN0006957X-00000031-0001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

韓國キリスト教会の信仰治療*1

現代シャーマニズム社会におけるキリスト教会

The Devine Healing in Korean Christian Church:

The Christian Church in the Modern Sharmanistic Society

渕　上　恭　子
Kyoko Fuchigami

Recently, the devine healing based on the exocise for drivinng away of 'kishin' has been prosperous at christian church in Seoul and all over Kyonggi-do destrict. The healing at Korean christian church is mainly dependent on suggestion and collective mesmerism, which takes in ventilation, experience of trance, and collective healing. According to the view of the illness in Korean christian church, the illness is caused by the invasion of kishin to man's spirit. The exocising method for driving away of kishin is held by a pastor who performs the devine healing. Kishin or the exocising method is derived from Musok, Korean folk religion. Such a devine healing at the Korean christian church is able to be understood as the phenomenon of the mutual infiltration of Musok as Korean folk religion and Christianity in Korea. In my article, I want to follow the spectacle of devine healing appearing at 'Unsa-assembly' and reffer to diverse aspects of the folkrization and the ingigenization of Christianity in Korea.

序：韓國キリスト教会の急成長—病める民衆と増大する教会

1970 年代以降，韓國のキリスト教会は世界の宗教界の驚嘆と疑義の的となっている。

現在韓國は教会過剰と言っても過言ではない。1981 年，ソウルでは建物の数で教会はついに喫茶店，薬局*2 を抜き 4492 を数えるに至った*3。路地裏のアパートの一室，ビルの地下室にまで「ここは教会である」という看板が掲げられ，三軒先には全く別の教会が立ち並んでいる。教会毎に掲げられた十字架はソウルの狭い空を一層窮屈に感じさせる。韓國には現在教会のない洞(トンネ)はないと言われておりどんな絶海の孤島にでも教会はそびえ立っているし，重要民俗文化財指定保護区域である河回民俗村にも観光客の目を避けるようにして村民が通うための教会が建てられている。韓國の教会の十字架は赤いネオンで縁どられており，夜半ソウルの夜空は教会の十字架のネオンで真赤に染まる。

1970 年代以降の韓國でのキリスト教会の急成長の模様を統計数字を引きながら概観してみよう。23 年前 5 人で始まったC教会が信者数 10 万人のマンモス教会に膨張し，わずか数年前に小さな開拓教会として出発したK教会が今では数千人の信者を抱える大型教会へと変わった。そして 1981 年に至って，今回本論文でもとりあげる S_1 教会が信者数 17 万人を突破し，単一教会としては世界最大の教会となった*4。このような教会の爆発的増加現象はソウルを中心に生じており，韓國全体の教会堂数の 4 分の 1，韓國全土のキリスト教徒の 3 分の 1 がソウルに集中している*5。韓國，特にソウルにおける教会

1* 現地語では「信仰治病」というが，ここでは一般に用いられている「信仰治療」という用語を当てておく。

*2 韓國にたくさんあるものと言えば教会，喫茶店，薬局が挙げられる。

*3 문화공보부，〈宗教團體現況〉，1981 년 5 월 16 일 조선일보.

*4 주간종교，1981년 6월 24일.

*5 同上

の乱立ともいえる爆発的増加は，70 年代に入ってからのソウルへの急激な人口集中を背景として生じたものであることは間違いないが，韓國における教会の急成長の最大の要因は，韓國キリスト教会の牧師による鬼神祓いに基づく病気治癒活動にあると言われている。

本論文では 1970 年以降の韓國キリスト教会の急成長の要因となった教会での牧師による信仰治療の現象と構造を，現在単一教会としては信徒数世界一となったソウル市の S_1 教会のC牧師の神癒と，「1961 年から現在に至るまでに 781 回にわたって 12 万人の鬼神侵入者を治病した」と標榜するソウル市 S_2 教会のK牧師の逐邪活動に焦点を当てて解明してゆくことを試みる。

I: 韓國キリスト教会の疾病概念と治病法

1. 韓國キリスト教の信仰治療にみる疾病観

今日の韓國におけるキリスト教急成長の核心に韓國キリスト教会の治病活動があると言われているが，そこにみられる疾病観とはいかなるものであろうか。韓國キリスト教会での信仰治療を解明していくにあたって，まずそこに行き渡っている疾病観をみておくことが必要であろう。

韓國キリスト教会の疾病観とは「あらゆる病気の原因は鬼神である」というものである。そこでは鬼神とはイエスを信じない「不信者の死後存在」で，人間の体内に入って病を引きおこす存在であると考えられており，もし目の見えない鬼神が人間の体の中に入ってくるとその人は目が見えなくなり，口のきけない鬼神が入ってくるとその人は口がきけなくなる。人間の各種疾病は皆，鬼神が人間の体内に入って活動するために生じるものなので，疾病を治癒しようと思えばその原因となっている鬼神を患者の体から逐出しなければならない。従って疾病は薬や医術によってではなく鬼神の逐出によって治癒するしかない。韓國キリスト教会における信仰治療とは「薬や医術とは関係なくイエスの権能で鬼神逐出により疾病を治すこと」であり，「教会の場で行なわれるあらゆる治病活動」と総称することができよう。

2. 信仰治療の方法の諸類型

韓國キリスト教会の治病の方法は様々なバリエーションに富んでおり幾つかの方法を併せて用いることも多く一概に述べるのは困難であるが，ある治病場面でどんな点に重点を置いて治病がなされるかという観点から神癒法，逐邪法，按手按擦法，断食法に分類することが可能である。

1). 神癒法

この方法はイエスの恩謝により疾病を治すもので，復興会*d の形態をとって行なわれるタイプの治病法である。ソウル市 S_1 教会で数百人，数千人に及ぶ重病患者が一堂に会して集団的興奮状態の中で進められてゆく「恩謝・神癒集会」がその代表例であり，そこでは絶えず「イエスの恩謝で病魔が立ち去りました。」という暗示的効果が働いている。按手や按擦の方法は，頭や背中，胸などを手のひらで軽くたたく程度のものか，頭に手を当てたり力を入れて頭を手で押しながら簡単な祈禱をしたり「シッ」という声を発したりする程度のものである。この時体が震えたとか胸ないし背中が熱く感じられたとか息が急にせくとか体のある部分に異常な感覚が走ったということを以て治療されたことの証拠と定めるのである。このような神癒法は逐邪法と併せて採られることもあり，恐らく神癒法は最も普遍化されたキリスト教治療集団の治病法であると思われる。

2). 逐邪法

この方法は人間の体内から鬼神を祓うことによって疾病を治すという治療方法で，鬼神論に立脚した疾病観をもっている治療集団において用いられている。逐邪法は様々なバリエーションを伴なって広く試行されており，集団的な治療場面でとり入れられることもあれば，巫堂の巫歌や神託と区別できないような祈禱の形をとって逐邪祈禱として行なわれることもあるが，代表的なものはソウル市 S_2 教会のK牧師によって患者にとり憑いた鬼神との間で一対一で行なわれる逐邪治病である。

3). 断食法

韓國の教会には祈禱院が併設されていることが多く，そこで大小の祈禱会や復興会が開かれている。ソウル市 S_1 教会断食祈禱院では断食祈禱による疾病治癒のための断食祈禱会が開かれており，病気を治そうと祈禱院を訪ねてくる患者達に断食を勧めている。断食法とは二つの見解に基づいてとられる治病法であるが，その第一の見解は，断食祈禱のみが病魔の権勢を敗北させるという信念のもとに，断食祈禱によって病気をもってくる鬼神を祓い，病魔の権勢に打ち勝って深い信仰に到達するというもので，そして第二の見解は，体によくない食物を食べすぎて各種の疾病が生じるのだから断食をすれば食物の毒素が体から出てゆき病気が治るのだという疑似科学的なものである。断食法は鬼神退治を目的とするものであるが，断食祈禱院には祝祭的な雰囲気が漂っている。

*d 韓國で教会が催す治病のための集まり。

4). 按手・按擦法

この方法は最も広く行なわれている治病法でどんな時でもどんな所ででも簡単に行なわれる。一方の手を頭に当ててもう一方の手で胸，背中を叩きながら簡単な祈禱や方言祈禱をしたりもする。按手の際，信仰が弱いために或いは罪を犯したために病気になったとか鬼神が憑いたとか言われることもあるが，イエスの権能で病気が治ったとか，鬼神が追い払われたから病気が治ったというような暗示が強くかけられる。患者が多数つかえていればまた簡単な祈禱も行なわれる。S_2 教会の場合，患者の頭に手を当てて「この汚ない鬼神め！イエス様の血で命ずる。さっさと出て行け！」と怒鳴り，呪文のような方言[*7]を呟けば按手祈禱が終わる。集団按手祈禱の場合と同様，体が震えたり異常な感覚が走ったことを以て治癒されたと判断される。

以上韓國キリスト教会の信仰治療の方法を大きく四つに分けて叙述したが，鬼神祓いをベースにしてこれらの四つの方法を適時混合して用いるのが一般的である。

II: 韓國キリスト教会における治病活動とその構造

前述のような疾病観に基づく韓國キリスト教会の信仰治療の本質が鬼神逐出にあることには変わりないが，治病活動の構造に注目するとそれには二つのタイプが見られる。その第一のものはソウル市 S_1 教会のC牧師によって行なわれる神癒型の治病活動で，それは病人である数百人，数千人の鬼神侵入者を教会堂の大ホールに集めて集団的興奮状態の中で一度に大量に治療するものである。そして第二のタイプのものはソウル市 S_2 教会のK牧師によって行なわれる逐邪型の治病活動で，それは牧師が患者に侵入した鬼神との一対一のやりとりのなかで鬼神逐出を行なうというものである。

1. 神癒・恩謝集会の集団治病——

ソウル市 S_1 教会C牧師の神癒型信仰治療

ソウル市Y広場に聳え立つ S_1 教会は「イエスの聖会 (Assemblies of God)」教団に属する教会で，1981 年に単一教会としては世界一の信徒 17 万人を擁する教会となった超大型教会である。創立は 1958 年であるが，信徒数は 1962 年 54 人，1968 年 5000 人，1971 年 1 万 5 千人，そして 1981 年に 17 万人を突破し急激に膨張した韓國教会の王座に着いている。なお信徒の推移に関しては 1973 年に爆発的に増大したということである。このような S_1 教会のC牧師による治病は復興会とよばれる治療集会の中で進められてゆく神癒型信仰治療の代表的なものである。

1). 公開される治病活動

神癒集会或いは恩謝集会という復興会とはまさに治病のための集まりであるが，この種の集会は曜日別に定期集会の形をとって開かれることもあれば，ほとんど毎日連続して開かれることもあれば，全国を巡回しながら開かれることもある。この集会はそれが開かれる以前の広告ビラと教会員による宣伝 (引導) から始められる。「すべての病める者達よ！○○○牧師の神癒で治ろう」「不治の病人よ来たれ，病を治せ」「鬼神論の世界的権威者○○○牧師が鬼神を祓いあなたの不治の病を治して下さる奇跡を体験なさい」等々の驚くばかりのビラがいたる所に貼りつけられ配布される。奇跡で病が治ったという証言集，その手の内容の月刊誌を発行する教団もある。このようなビラや雑誌を見た瞬間から患者やその家族は好奇心と期待感に胸をふくらませるようになり，「政府高官の某氏が肝臓癌を按手祈禱を受けて完全に治した。行って祈禱を受ければあなたの病も必ず治ります」という知人の強力な勧誘により，患者や家族は按手祈禱に希望をつなぐようになる。恩謝集会以前から病が治るのだという強い暗示を受けることになるのである。特に治癒がうまくいかない慢性疾患や癌のような致命的な疾患のために苦しんでいるとき，また治療費がなく病院で治療を受けられずただ死を持つのみといった絶望状態にあってこのような福音を耳にしたとき，最終的に一度行ってみるかといった漠然とした期待感も生じ得るのであろう。このようにして恩謝集会へと患者が集まってくるのであるが，小さな集まりでは数十人が，大きな集まりになると数千人，数万人も集まってくる。

2). 治療集会での礼拝の雰囲気——恩恵と感激

恩謝・神癒集会の礼拝の雰囲気は普通の教会の礼拝の雰囲とは大きく異なっている。そわそわして興奮しており，彼らのことばを借りれば終始「恩恵と感激」の渦につつまれている。講壇の横ではポップソング演奏に利用される電子オルガン，たいこ，アコーディオン等々の楽器があり，その楽器でポップソング調にアレンジされた賛美歌が騒々しく演奏される。信者が歌う賛美歌は厳粛というよりは非常に陽気である。はじめのうちはたいこの音に合わせてゆっくりと歌うが，だんだん拍子が速くなり，しまいには賛美歌の歌詞を到底歌えなくなるほど

---

*7 新約時代に聖霊の降臨によって弟子たちが自分にもわからない外国語を話して異邦人を驚かせたということば。もしくは恍惚状態の中で聖霊によって話される内容不明のことば。

になる。礼拝を執行する者も信者も皆両手を振って体を上下，左右，前後にひっきりなしに動かし，顔がが恍惚と感激，そして鬱憤と哀訴でごちゃごちゃになっている。立ち上がって声を張り上げる者もいれば，礼拝執行者がぴょんぴょん跳びはねて跳舞したりもする。賛美歌のメロディーに「主よ！ハレルヤ！」といった簡単な単語ひとつだけを反復する歌詞をつけて歌ったりもするが，急激な速度で曲が進行し，しまいには慟哭と叫び声でめちゃくちゃになることもある。講壇を太鼓にしてこぶしでドンドンたたいて賛美歌を歌いもすれば，自分の頭，膝，体を手のひらでたたきながら賛美歌を歌いもする。泣く者もいれば笑う者もいる。賛美歌が終わると引導者が「主よ！」と地響きがするほど怒声を張り上げ信者がそれを数十回も反復する。執行者の牧師の祈禱は特異である。信者と牧師が声を合わせて「主よ！」「ハレルヤ！」「アーメン！」などひとつの簡単な単語だけを数百回反復する。それに方言も混ぜられて，限りなく繰り返されたりする。このあたりになると興奮の極致でヒステリー性痙攣をおこす女性が至る所にでてくる。皆神が現われている，神がのりうつったという巫俗社会の表現が適合するようである。

牧師の説教の内容も単純で簡単で反復的であり，信者と問答するかたちの説教であることもある。

牧師：「イエス様が今この瞬間に死刑宣告を受けた病人を治して下さいました。治して下さいました。治して下さいました。信じますか？」

信者：「アーメン，ハレルヤ！」(を連発し両手を振る.)

牧師：「イエス様が病人をお治しになりました。このことを信じる人は右手をあげなさい。右手をあげた方は病気がみな治りました。信じますか？胸が熱くなった方は手をあげなさい。イエス様の恩謝で病気が治りました。信じますか？」

信者：(手をあげて)「アーメン！」

引導者：(説教の途中で)「魔鬼よ，あっちに行け！シッ！」

信者：「ハレルヤ！」

牧師：「この時間に皆様の病気はすべて治りました。治りました。治りました。ハレルヤ！」

礼拝時間に自分の病気が必ず回復される。あるいは回復されたという暗示を十分に受けることになるのである。そのあとにも賛美歌祈禱，通声祈禱等が続けられるが方言と簡単な単語の反復と急テンポの賛美歌の合唱が継続される。そのあと牧師が信者一人一人の頭や背，胸を手のひらで押さえたりたたいたりして，方言や「シッ！」という声を発しながら歩き回ることもある。この時マイクをつかんで坐り「主よ」ということばだけを早口で数千回くり返して発する者，方言をつぶやきつつ「主よ」というときのみ叫ぶ者がいる。ねそべってねころがったかと思うと起き上がって踏舞したりしながら按手祈禱が終わるときまで継続する。ある場面では一人ずつ講壇の前を横切って行って按手を受けるのであるが，頭，胸，背中，膝を一つずつ続けて打つこともあった。そうしながら，「信ぜよ！もう病魔がみな逃げて行った！」と按手祈禱者が告げてやる。牧師が信者の席を歩き回り頭を手で押えつけて「病魔よ！あっちへ行け！シッ！」ということもあれば，鬼神と対話をすると言って「これを食ってあっちへ行け！」と怒鳴ることもある。

3). 暗示と集団催眠

神癒型治療に見られる最も際立った原理は暗示と催眠である。そこでは「信じよ！無条件信じよ！信じれば治るのだ」と説得される。「誰々は癌で死ぬ直前だったが按手祈禱で治った」と説得され，実際回復したことで知られる者の証言を聞く。その時周囲で「ハレルヤ！」と皆が騒ぎ立ててその事実をさらに強調する。方言と祈禱と賛美歌を繰り返しながら「お前は病を治していただいたんだ。だから感謝しろ」と病気が治ったことが強力に告げられる。「病気は鬼神のせいだがその鬼神を祓ったのだから病気は治ったのだ」と繰り返し言い聞かされる。

神癒・恩謝集会においては開始前から終了時まで「病気は治った」という事実が強調されるが，これは病苦で絶望にうちのめされた者の回復したいという切なる願望を簡単に充足させてやることであり，そのような願望が叶えられたという確信を持たせるのに十分な暗示効果を与える。それはよしんば客観的事実ではないにせよ，絶望のどん底にある患者には大きな福音であることであり，故に信じてみたいという衝動が充分に生じうる。

ことに神癒・恩謝集会は集団催眠の効果が多分にある。そこでは礼拝儀式で催眠が引きおこされる。催眠を引きおこす方法にはいろいろあるが，最もよくみられる集団催眠誘導法は単純な動作と単純なリズム，単純なことばを継続して反復するものである。このような反復を通じて信者は自ら催眠状態におちいるのである。簡単な発音を反復する方言，音，「主よ！」「ハレルヤ！」等のことばひとつだけを数百回繰り返し叫ぶような音声の反復を継続する。そして太鼓や机をドンドンたたいて単純な

音を反復させて，賛美歌の歌詞も「主よ！」「ハレルヤ！」「アーメン！」「恩謝！」等の簡単な単語ひとつだけを反復するものにかえて歌う。動作も簡単なものの反復となる。礼拝の引導者たちは速い太鼓の音に合わせて上下ないしは左右にぴょんぴょん跳びながら巫堂の踊りのような跳舞を繰り返し，信者達も坐って前後，左右，上下に体をゆすり続ける。頭だけを繰り返し振ることもあれば手をあげて振ることもあるし，横手を打つこともあれば手で頭や膝をたたきもする。このような動作が始めのうちはゆっくりと反復されるが，次第に速くなっていき，しまいには急激な速度で反復されるようになる。ある中年女性の場合は以下のようであった。一人で坐って祈禱をしており，最初はじっと坐って祈禱をしていたかと思いきや体を前後に動かすこと十数分。次に両手を曲げて動かすこと十余分，そして体と手を同時に動かすこと十数分，合わせて 40 分間体を動かしていた。初めのうちはゆっくりであったが徐々に速くなり「主よ！」と叫び続けて最後には解離状態になって気絶しそして全身の痙攣を自動的に誘発させていた。その女性はイエスの保恵師聖霊が自分の体に入ってきたと述べていた。

興奮と熱狂のうちに神癒，恩謝集会は幕を閉じ，イエスの恩恵によって病を治した「元患者」達は我先にホールの出口へと殺到し他人を押しのけて家路につくが，治療集会が終わってもまだ席を立つことができず体を硬直させ震わせながら呪文のような意味不明の叫び声をあげて祈禱をし続ける人が，うす暗い大ホールの随所に残っている。

2. S_2 教会 K 牧師の逐邪活動

ソウル市Y区にある S_2 教会は，韓國キリスト教会の治病のもう一方の雄である逐邪型治病を行なう教会の代表格である。この教会は 1969 年に創立され逐邪法による鬼神祓いをして治病を行なうK牧師で一躍有名になった教会である。K牧師は「1961 年より現在に至るまでに 781 回にわたって，躄，盲目，聾唖，各種の癌患者と鬼神侵入者 12 万人を逐邪法により治病。その間 10 人の死者を生き返らせたが，特に葬式前に生き返らせたこと 3 回」という治病経歴をもつ牧師である。S_2 教会でも治病のための復興会が催されることがあるが，この教会の最大の目玉はK牧師が被鬼神侵入者に対して一対一で行なう逐邪治病にある。K牧師の逐邪治病は多くの場合，礼拝を進めていく中で患者である被鬼神侵入者に対して個別的に行なわれる。

1). 逐邪治病——興奮と恐怖

K牧師とその助手による礼拝では，礼拝的雰囲気がありながらも物々しくちょっと凄まじい気分が加えられる。

K牧師の『鬼神存在論』によれば，世の中はみな魔鬼と鬼神のいたずらのもとにありイエスがこの世に現われたのは魔鬼・鬼神と闘うためであるということだ。その闘いは熾烈なもので結局はイエスが勝つことになるのであるが，それまではこの世は熾烈な戦闘場である。この闘いに勝つためには信者達は鬼神と戦わなければならず，この事実を信じない者は呪詛を受けて魔鬼の手におちるのだと脅かされ，K牧師の鬼神論を信じない者は天罰を受けて即死すると脅迫までされる。信者達は礼拝時間に早くもおじけづくようになり自分の中に何か鬼神がとり憑いているのではないかと不安になり，礼拝の途中で「鬼神よ！あっちへ行け！」と怒鳴るようになりさえする。

礼拝でK牧師が病を治す「予備知識」の講義をし始める。病気にかかるのは鬼神が入ってきたからである。従って病気を治すということは鬼神を祓うことである。鬼神とは死者の霊魂でありイエスを信じないで死んだ不信者の霊魂である。病気を治すためにはまず鬼神が入っていることを認めなければならず，病気になったり家内に憂患があるのも鬼神のいたずらのせいだということを認識しなければならない。鬼神が人間の霊魂内に居坐ることができないよう心の準備ができたとき「出てゆけ！」と心に力をこめて言えば治るのだ。鬼神は悪い奴だから「この鬼神め」と罵れば鬼神が自分を放棄して逃げ出すのである。だから自ら鬼神を虐待して鬼神に対すれば鬼神はがまんできず出てゆくのである云々。

そしてK牧師は病を治そうと集まって坐っている信者達に霊魂に入っている鬼神に出ていけと罵る祈禱をしろと命ずる。信者達は頭を下げて何分間か熱心に祈禱する。既に四方ではもみ消す音も出て「この鬼神め！」等鬼神を罵る声が聞こえてくる。

礼拝が終わると逐邪を受けたい者が 50 人から 100 余人集まってくる。実は先の説教を聞いて逐邪を受けないとその場で死んでしまうかもしれないという恐怖が生じて逐邪を受けることになるのである。K牧師が「では一人ずつ前に出て按手祈禱をするが，まず私が鬼神を罵るが，これは皆さんにするのではなく皆さんの中にいる鬼神にすることですから間違えないように。私が両手で頭を抑えて鬼神に出ていけと言うと鬼神は出て行きうしろに倒れるでしょう。」と心得を説く。信者は一人ずつK牧師の前へ出る。興奮と恐怖のまっただ中でK牧師と信者に侵入した鬼神とのやりとりに沿って逐邪が展開され

てゆく。

K牧師:「鬼神よ！いつ死んだんだ！」
鬼　神:「3 年前交通事故で死んだ。」
K牧師:「どこで死んだんだ？」
鬼　神:「ソウルで死んだ。」
K牧師:「何歳で死んだんだ？」
鬼　神:「46 才で死んだ。」
K牧師:「鬼神よ，なぜこの女性に憑いたんだ？」
鬼　神:「好きだからさ。」
K牧師:「知ってる人なのか？」
鬼　神:「僕を知らないふりをするんだ。」
K牧師:「何の病気を持ってきたんだい？」
鬼　神:「心臓病を持って来た。」
K牧師:「どこが悪いのか？」
鬼　神:「時には肩も痛む，薬も飲まないで勝たなければ！牧師様から按手を受ければ治るさ。」
K牧師:「汚ない鬼神め！行くのか行かないのか？」
鬼　神:「行くよ！病をもって行かなくちゃ。」
K牧師:「また来るのか，来ないのか？」
鬼　神:「もう来ない。お前はイエスを信じて達者に生きるんだ。僕は行く，僕は行く。K牧師がこわいから僕は行く。病気を治療した後，頭がさっぱりとして愉快だ。もう完全に生き返った。」

K牧師の弟子である若い牧師の逐邪が併行して行なわれたことがあったが，その逐邪では按手が取り入れられていた。

逐邪事例 1).

若い大学生と思われるある男子学生が按手祈禱を受けるためにやって来る。若い牧師が鬼神に向かって大声を発すると大学生の口から異様な低音の心臓の音のような声が流れ出てきた。「豚鬼神」ということだ。漸くの間この豚の声を発して頭を振って立ち去って行った。ネクタイをきちんと結んで表情もなく出て行った。

逐邪事例 2).

信徒の数が多く時間が午後5時を回ろうとした時，2～3 人の若い牧師が現われて逐邪を始めた。ある若い牧師が 30 代中頃かと思われるおばさん風の女性と対決していた。「お前は誰だ！出てこれないんだろう」という牧師の大声に女性はオンオン声をあげて痛哭し始めた。「出て行け!」「いやだ」と言い合いつつ泣いたりわめいたりしていたが，按手を受けると後ろに倒れたと思いきや起きあがり，笑い声をあげながら笑顔で「ハレルヤ，ありがとう」と叫んで踊って退場して行った。

大部分の場合，牧師が皆の面前に逐邪を受ける信者を並ばせておいてあれこれと鬼神を指さして罵倒して頭をつかんで揺すりながら「この汚い鬼神め！出られないんだろう！」と怒鳴ると信者は気絶してしまうが，おもむろに起き上がると特に変わった表情もなく歩いて出て行ったものであった。

牧師の手にかかると，それまでは被侵入者を苦しめ生々しく恐ろしい存在であった鬼神が急に畏縮し臆病な存在になってしまい，今まで祟っていた割にはあっさりと退散して行ったものであった。牧師の取り持ちにより鬼神と被侵入者が劇的な和解をするといった場面が見られることはなく，鬼神はただ牧師が怖いあまり出て行くといった感じである。牧師による逐邪は案外あっけなくその場限りという印象を受ける。

2). 信仰治療における鬼神

K牧師が礼拝および治病集会において鬼神を逐出する逐邪場面で，鬼神はどのような存在として立ち現われてくるのだろうか。逐邪のプロセスと，鬼神と牧師のやりとりの内容を検討しながら韓國キリスト教会での信仰治療における鬼神の考察を試みたい。

①. 逐邪のプロセス

K牧師による逐邪は鬼神とのやりとりを通じて進められるが，その鬼神とのやりとりには一定のプロセスがあり各プロセスにおけるK牧師の質問には一定のパターンが見られる。まず逐邪のプロセスから整理してみると次のようになる。

i). 鬼神との対面――鬼神を呼び出す
ii). 鬼神とのやりとり
　a. 鬼神が誰か？――名前，性別，死亡時の年齢，死亡した時，死亡場所，死因を尋ねる。
　b. 被侵入者との関係――いつ侵入してきたか，侵入してどの位いになるか。侵入した理由，目的。被侵入者との関係，侵入時に持ってきた病気を尋ねる。
　c. 鬼神の心況等――悔しく恨めしいか，イエスを信じていたのに死んだ者はいたか問う。
iii). 鬼神の哀訴――鬼神が悔しいと叫んで痛哭し哀訴する。

iv). 鬼神の逐出

a. 行くのか行かないのか。また来るか来ないか鬼神に尋ねる。

b. 鬼神を怒鳴りつけ被侵入者の外に出す。

c. 鬼神が出て行く理由を述べる。

以上のようなプロセスに沿って牧師による逐邪が進められてゆくのであるが，K牧師と鬼神のやりとりは常にK牧師の質問に鬼神が答えるというかたちで展開されてゆく。

②. 鬼神の属性

逐邪の流れをフォローしつつ各々の逐邪場面で発せられる鬼神の返答を検討してみると次のような属性が明らかになる。

i). 鬼神の名前

具体的な死者の名前を名乗る鬼神，巫堂鬼神，乞食鬼神，寡婦鬼神，兄鬼神，兵卒を皆失なって一人残った隊長鬼神，仏教天眼鬼神，将軍鬼神，餓死した鬼神，嫁に行かれない処女鬼神，姑鬼神などが見られた。

ii). 鬼神の性別——女性鬼神が多い

iii). 死亡時の年齢

10歳から30歳以前が多く，若くして死んだ者が大部分である。

iv). 鬼神となった者の死因

疾病，交通事故，餓死，自殺，他殺，その他，不慮の死，無念の死を遂げたことがわかる。

v). 鬼神の侵入期間

5年未満であることが最も多いが，中には10年以上も出て行かないこともあれば1年未満で出て行くこともある。

iv). 鬼神が持って来る病気

簡単に治療や手術を施すことのできない心臓病，高血圧，肺病，胃腸病，胃潰瘍等の内科疾患が大部分である。

vii). 鬼神が侵入した目的

大部分が怨恨をはらすためであり，苦しめてやろうとして，殺そうとして侵入している。他に家庭を破壊しようとして信仰生活を妨害しようとして侵入した者もあった。

viii). 鬼神が侵入する時

鬼神が最も侵入しやすいのはイエスを信じない時である。イエスを信じているにしても戒律を犯す，伝道を怠る，伝道士に不従順，寄附を怠るなどまっとうな信仰生活を営んでいないときは鬼神に侵入されやすい。「イエスを信じていたのに死んだ者を見たか」という質問に対して鬼神は皆「見たことはない」と答えており，「イエスを信じないで死んだ者を見たか」という質問に対しては皆「たくさん見た」と答えている。K牧師は自らの著書である『鬼神存在論』の中で，人間の霊魂の中には聖霊のみが住むことができ，このイエスの霊を祀る者こそが信者であると述べる。鬼神は人間の霊魂の中には住むことはできず人間の生覚ないし意識の中にしか入ってこれない故，聖霊を心の中に祀る者は鬼神になることはないと言う。それ故イエスを信じて死ねば鬼神になることは絶対にないということである。拠って鬼神がイエスを信じないで死んだことを後悔することもあり，鬼神が被侵入者から出て行きながら「イエスを信じて達者で暮らせ」と哀願することも多い。

ix). 鬼神と被侵入者との関係

両者の関係は親知の間柄でありしかも極めて近い家族や親族である。鬼神は家族その中でも特に生前平素から感情的にしっくりいかなかった者の体内に侵入しうっぷん晴らしに疾病を引き起こすのであるが，その場合嫁や兄嫁，弟嫁に侵入する例が多い。知らない間柄の者に侵入することはまずないと言ってよい程である。また遠い祖先が子孫に侵入するといった例も見られなかった。血縁者に侵入するとは言っても疎遠な者には侵入せず，生前確執が避けられなかった近親者に侵入するようである。

x). 鬼神が出てゆく理由

鬼神はK牧師に怒鳴られてK牧師が怖くて出てゆく。『共観福音書』の中に出てくる怒声による逐邪のやり方がここでそのまま適用されている。また逐邪の際鈴の音を響かせて鬼神を逐出することがあるが，それは悪魔が最も嫌う音が鈴の音であり，巫堂が巫儀の際巫具として鈴を使用することによるのであろう。

以上の考察によって明らかになる鬼神像から，儒教イデオロギーからくる父系血統主義が貫徹しており祖先崇拝が徹底している韓國社会において，古代から生き延びてきている巫俗と外来のキリスト教がどのように関わり合っているかという一種の宗教複合の様相とその社会の病因論との関係がうかがえる。

続いては，韓國キリスト教会での信仰治療を異なる宗教の習合，いわゆるシンクレティズムの観点から考察してみたい。

III: 韓國キリスト教会の信仰治療とキリスト教の「土着化」

前章にて韓國におけるキリスト教会の急成長を担った韓國キリスト教会の信仰治療を考察してきた。去る1980年，韓國はキリスト教宣教百周年を迎え，韓國にキリスト教が入ってきてから既に一世紀余り経過したことになる。韓國キリスト教110年の歴史を鑑みるならば，韓國キリスト教会の急成長はここ 20 年足らずの出来事でが，近年の韓國でのキリスト教会の急成長はしばしば韓國におけるキリスト教の「土着化」として論じられる。韓國キリスト教会の信仰治療はキリスト教の「土着化」の中でどのように位置づけられるのであろうか。

1. 韓國キリスト教会の信仰治療にみる巫俗

韓國キリスト教会の信仰治療の中には韓國人の基層信仰をなしている巫俗が無意識的であるにせよ取り込まれていることがみてとれる。信仰治療の場面では巫儀でとられるような複雑な手続きは省略されているが，治療集団に行き渡っている意識や概念は巫俗のそれと共通している。治療場面で被侵入者を通じて発せられる鬼神の名前が皆巫俗社会のものと同じであること。またその性格も恨しさのうちに死んでいった人間の魂であり，それが具体的な人格を備えていること。またそのような鬼神が人間の体の中に入って病を引きおこすという疾病概念をもっていて，病気が治ったことを「病気（鬼神）が出て行った」と言うことが韓國キリスト教会の信仰治療に共通してみられる。今回採りあげた二つの教会の治病活動に即して述べると，S_1 教会C牧師の神癒集会では，病が重いときは巫堂が祈禱をし病者の前で踏舞すれば病神が逃げて全治するという巫俗の治病法が取り入れられており，S_2 教会K牧師の逐邪治病では，鬼神を驚愕せしめ威圧することによってこれを患者から退けその接近，侵入を防ぐいわゆる巫俗の「驚圧法」*8 とよばれる鬼神逐出法が用いられている。韓國キリスト教会の信仰治療と巫俗にはその意識，概念，鬼神逐出法において共通するものが見られる。韓國キリスト教会の信仰治療が，キリスト教が韓國に「土着化」してきた過程で生じたキリスト教と巫俗の習合現象であると言われる所以はここにある。

結語: シャーマニズム社会の宗教心性

近年の教会の大量発生というかたちでの韓國におけるキリスト教の「土着化」は，韓國の古来からの基層民俗信仰であるシャーマニズムの下地があって起こったことであると言われる。そこには勿論現実的な理由もあった。まず 1970 年代にソウルへの急激な人口集中があったこと，近年のセマウル運動の迷信撲滅政策のために一般の人々の間で巫俗が迷信視されるようになったこと。また，巫儀では大変な手間と経済的負担が強いられるが，教会ならば複雑な手続きは省略されること。また日常においては巫堂に対しては今なおどこかで社会的賤視があり，文化財保護，学術研究，民族主義といった権威づけがないと巫堂には関わりにくいが，牧師ならば一定の社会的ステータスを備えており，社会的な地位や教養のある人でも安心して受けられる病気治療を施してくれること等々。このような現実的な状況に乗っかるかたちで，かつて巫堂が巫儀で行なっていた病気治療の役割を教会で牧師が引き受けるようになり，教会が人々のシャーマニスティックな心性を取り込んでいったという一連の過程があったのであろう。

韓國の宗教史には，シャーマニズムである巫俗，仏教，儒教，そしてキリスト教という流れがみられ，各々の宗教がその時代毎の体制に従って編成，再編成を繰り返してきたなかで仏教，儒教とはシャーマニズムは習合したり併存したりしてきたが，キリスト教はシャーマニズムである巫俗のエネルギーと無意識を取り込むかたちで韓國で世界の他のどこにも類をみないような異常な膨張を遂げた。

韓國キリスト教会の信仰治療には現代のシャーマニズム社会の宗教心性が映し出されている。

追記: 本論文の執筆は 1989 年～1990年 の慶應義塾大学交換プログラムによる大韓民國延世大学校大学院への留学により可能となった。両大学に感謝の意を表する。

*8 村山智順，『朝鮮の鬼神』.

〔参考文献・資料〕

李能和，『朝鮮巫俗考』
村山智順，『民間信仰第一部，朝鮮の鬼神』朝鮮総督府
김기동，〈귀신론〉
문화공보부，〈한국종교편람〉，1979.
문화공보부，〈종교단체현황〉，1980.
백승열，〈제세제 1 의교회를〉，주간한국 1981 년 6 열 7 일호，
이광복，순복음중앙교회 〈천막에사앙국이이루어지기까지〉주간한국 1981 년.
이야복，〈순복음중앙교회〉，열간조선 1981 년 4 열호.
주간종교，1981년 6 열 24 일.
한국기독교사회문체연구원，〈한국교회 100 년종합조사연구보고서 (중간)〉1980.